

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400108		
法人名	特定非営利活動法人 里・つむぎ八幡平		
事業所名	認知症対応型グループホーム ぱんたれい		
所在地	〒028-7112 八幡平市田頭22-108-4		
自己評価作成日	令和4年12月11日	評価結果市町村受理日	令和5年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市みたくにあるみんなのクリニックの医師の協力により、グループホームの入居者様のかかりつけ医として診ていただき、入居者様の受診にも対応して頂いている。また、夜間・緊急時の対応もスムーズに行われており、看取りに向けた対応も可能となっている。今年度も2名の看取りを経験し、医療・介護及びご家族様との連携の重要性を再確認、加えて職員のケアの確立が図られるつつあると感じている。今後さらに連携を深め、職員の技術向上やそれに伴う地域貢献に役立てることができればと考えている。それと並行し、自立支援に力を入れ、認知症への理解を促す活動をなお一層模索していきたいと思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を運営する法人「里・つむぎ八幡平」は、認知症対応型GHのほかに、障がい者GHや小規模多機能ホームも運営し、関連法人は農業や食堂の経営を行っており、各施設が良く連携して共に運営を支えている。事業所は、大更地域の市街地の周辺に立地しており地域との関わりが強く、避難訓練では住民の協力者も確保している。盛岡市内の協力病院の支援を受け看取りに積極的に取り組んでおり、職員は経験値を高めている。また、排泄ケアの充実に取り組み、「POOマスター養成研修」の受講を進めており、下剤に頼らない排便改善に注力してしていることは特筆される。利用者の思いや意向の把握のために、今年から「青春日記」に取り組み、利用者が輝いていたころの事柄を丁寧に聞き出すことを進めており、この取り組みの成果が期待される。管理者や理事長のリーダーシップのもと、職員は明るく意欲的に利用者のケアに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和5年1月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員から意見を募り、法人理念を変更し、令和4年度は、「共生(ともいき)でつむぐ笑顔と安心の里づくり」として取り組んできました。リビングに掲示し、会議で定期的に理念の確認を行い浸透できるように取り組みをしております。	法人全体の理念を見直し、リーダー会議での話し合いをもとに令和4年から現在の理念としている。職員理解を進めるためにホール内に掲示するとともに、毎月の職員会議の場で確認している。更に三つの指針と、事業所ごとに具体的な年間目標や月間目標を定め、職員全体で共通理解を進めている。今年は、①チーム作り、②ケアの統一、③記録の整備、④接遇意識(言葉遣いと態度)の4項目を年間目標とし、1月から取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方が、お花をさしいれくださったり、避難訓練に参加して下さったりと、感染対策をしながらも交流が出来ていたと思います。	コロナ禍で地域との交流活動が制限されているが、ご近所から漬物や野菜の差入れがあり、お花を届けてくれる方もいる。近くの中学校にお花見に出かけたことをきっかけに、広報誌の交換を行っている。また、避難訓練の際には近所の方も参加してくれる。法人としても、敬老会や夏祭りなどの行事に合わせ、カフェ、マルシェを開催し、利用者や家族、地域の方々との交流の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、「ともいきカフェ」を企画するなど、認知症への理解の場を提供することが出来たと思います。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を徹底していましたが、開催が難しいこともあり、その際は書面報告とすることもありました。地域の方々のご意見をもとに、施設内の見学、避難訓練の協力をしていただく事につながりました。新たなメンバーとして、八幡平消防署に参加をお願いしている最中です。	コロナ禍の中でも参集開催を心掛け、令和4年度は11月だけが書面開催とした。元町内会長と元高齢者施設職員の2人が地域の関係者として参加しており、避難訓練への近隣住民の協力や法人の防災設備の見学などに対する貴重な意見をいただいている。今後、消防署、警察署等にも参加を要請する予定である。	運営推進会議の委員として、地域の関係者の参画が更に欲しいところであり、例えば良き理解者である地元の民生児童委員等の参加を検討されるよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方が参加されており、相談事業及び介護保険事業に関する相談をさせていただいています。また、普段から積極的に市役所や北部行政を訪問し意見交換を行ない、協力関係を築くようにしています。	運営推進会議に市役所から参加してくれ連携を取っているほか、地域包括支援センターとはケアマネを中心に普段から連絡や相談を行っている。この連携の中から、別施設で生活困難である方の情報を得て、適切な対応ができた例もある。生活保護受給者もあり、担当ケースワーカーが定期的に来訪してくれる。		

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関に身体拘束ゼロ宣言を掲示し、よほどの緊急事態以外は身体拘束をしない決意をもって職員一同ケアにあたっています。また、法人内研修やサービス向上委員会として、研修を開催し振り返りの機会を作っています。現在のところ、身体拘束はありません。	法人全体での身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、事業所からは管理者が参加している。職員への研修は年2回実施しており、DVDも活用して全員が受講している。家族に説明し理解を得て転倒防止のためのベッドセンサーを2名が使用している。スピーチロックには特に留意しており、丁寧な声掛けの徹底を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の運営会議はもちろん、月1回のケース会議等で、特に言葉の暴力については何が暴力になるのかなどを説明しています。また、一人ひとりの状態や特徴を知り、その方に合ったケアを心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度に関する講習を行ない、学習の機会を設けています。今後より一層の勉強が必要と思われます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人及び、ご家族の不安や疑問点を理解し、納得・安心してご利用いただけるよう努めています。法改正等があった場合はその都度、分かりやすい説明と疑問点の解決につながるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からご意見要望等があった場合には速やかに会議を開催し、対応しています。また、意見箱も設置しています。	支払いの際の来訪や通院付添の際に、職員も家族と話す機会があり、最近では面会の要望が多くなっている。運営推進会議で家族代表からは、事故報告への質問が多い。利用者からは、職員の利用者への声掛け等の要望もあり、サービス向上委員会の中で話し合って改善された事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議やケース会議だけではなく、日々職員の自由意見を聴取するようコミュニケーションを重視しています。	月例の運営会議やケース会議で職員から利用者のケアに関するもののほか、理事長、事務長も入る各事業所のグループLINEを通じ、利用者の入浴の変更や配慮などに臨機応変に対応するなど、利用者の日々の情報ははじめ課題改善等の情報の共有化が図られている。理事長等と職員との個人面談を年度末に行うほか、随時の面談機会もあり、職員個々の相談等に対応している。	

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の経験や資格取得及び日々の仕事への取り組み状況を勘案し給与へ反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の法人勉強会へ参加、参加できない職員も、動画で学ぶことが出来る仕組みを作っています。感染対策を行ったうえで、外部研修などにも参加をするようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との合同研修を開くなど、感染対策を講じたうえで交流の機会を作ることが出来ました。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をもとに、生活歴や性格を入居者プロフィールを作成し、ご本人に寄り添ったサービス計画を立てるようにしています。また、日頃のケアの中で利用者様の訴えを傾聴し、職員間で共有できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と複数回面談や電話をおこない、家族の不安や疑問にお答えし、信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期説明の際、自施設としてできること・できないことを明確に伝えながら、自助努力の枠を広げる可能性についても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を生かすためにも一人一人にお掃除や洗濯たたみ、配膳、食器拭きといったお手伝いを取り入れています。施設周辺の草取りや自家菜園の手入れ等も手伝っていただいています。		

事業所名： 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族の意向を大切に、両者に相違がある場合は根気強く調整し、双方の思いが調和されるような関係性の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日は散歩に出かけたり自家菜園で畑作業をするなど、気分転換をしていただいています。また、基本的には面会は感染対策を講じたうえで行き、なじみの方や場所との関係性が途切れないよう支援しています。	コロナ禍で友人や知人の来訪が無くなっているが、近くの畑に出掛けて作業や見学をしている。また、昔の馴染みの場所を聴き出して、ストリートビューで今の様子を一緒に見て、思い出の場所を巡ったりする工夫をしている。家族の法要やお盆の時期には、家族付き添いで出掛けられる方もいる。訪問理容は2ヵ月毎に来訪し、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の個性や相性・認知能力等を把握し、時には職員が橋渡しの役割に入り、協力し合えるような関係性の構築に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があった場合には、その内容に沿った具体的な支援を心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度新たに、「青春日記」という聞き取りに力を入れていきます。その方が一番輝いていた時代の話を聞き取り、職員、ご家族と情報共有をしています。	利用者の思いや意向の把握のため、今年から「青春日記」という取組みを行っている。利用者が輝いて生きてきた時代(昭和)に行われていたこと、流行っていたことなどの話題をリーダーが中心になって利用者から聞き取り、掘り下げしている。その話題から利用者間で話が広がることもある。また、若い職員やコミュニケーションが苦手な職員にとって、利用者が過ごしてきた時代を理解することで個々の尊重にも繋がっている。利用者との会話を円滑に進めるツールとして、現在試行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを密にとることにより、入居者の人生背景を把握することに努め、その過程で信頼関係の構築を図っています。		

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活日誌をつけ、日々の状態把握に努めています。職員間で確認の機会を定期的に設け、記入の統一を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、かかりつけ医の意見を重視して作成しています。ご家族来所時には、ケアサービスの在り方などについて説明し、現状に即した計画を作成しています。	介護計画はケアマネが原案を作成し、家族の意見も伺ってケア会議で決定している。居室担当制を採らずに全職員がケアに従事する中で、3か月毎のケース会議でモニタリングを行ない、6か月毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、昼食後の時間を使い、入居者について話し合う時間を設け細かい変化や気づきを大切にしています。月1回はケース会議を、状態変化時はその都度、開催し重要なケースの話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族から要望があった場合、勤務状況を調整し、出来るだけ対応するようにしています。今年は、お花見ドライブに自宅の縁側でお茶を飲む試みをしてきました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人敬老会などの行事で地域のボランティアの方に余興をしていただいています。地域のヤクルト配達員の方に嗜好品を届けていただくなど本人のニーズに合わせて豊かな暮らしの実現につなげています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナの対策として、体調に変化のない入居者様は電話再診で対応し、職員から主治医にファックス等で情報提供し、適切な医療が受けられるように連携しています。利用方針などの変更があった場合、速やかにご家族に連絡を取り説明をしています。	盛岡市にある協力医療機関に6人、八幡平市立病院に2人、八幡平市内の開業医に1人が通院している。協力医療機関は看取りの支援病院でもあることから、入居後にかかりつけ医とする方が多い。看護業務は、同法人内の看護師が随時対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に変化や、対応への不安が生じた場合は速やかに医療機関に連絡し指示を仰いでいます。また、同法人の看護師に、皮膚状態や爪の状態を見ていただけるように連携をしています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、適切な医療を受けられるよう情報共有を行うとともに、入居者様の状態を把握するため病棟やご家族と連絡を取り合い連携をとれるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に、終末期ケアに関してもお話しさせていただき事業所の方針を伝え、同意を得ています。また、看取りが必要になった場合、再度意向確認を行い、サービス計画書を切り替え、入居者・家族・職員が一つになってケアができるよう、主治医と連携を図りつつ作成をしています。	盛岡市内の協力医療機関医師の支援を得ながら看取りに取り組んでおり、今年度は2人、開設以来9人を看取っている。本人、家族とも、看取りを希望する方が多くなっている。職員の経験値も積み重ねているが、未経験の職員には先輩職員がアドバイスする等、看取り後のグリーンケアを含めて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、職員に周知を図っています。今年度は、八幡平消防署による救急救命の講習も実施していただきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人の別施設の職員を県災害派遣に登録しており、その研修をもとに防災体制作成および消防計画、自営消防隊編成等を作成しています。年3回(火災2回、水害1回)避難訓練を行っています。今年度は地域の方にも実際に訓練に参加していただきました。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れ等の危険地域には含まれていない。高齢者等避難の場合には、避難場所であるコミュニティーセンターに移動するよりホームに止まる方がむしろ安全と考えている。避難訓練は年3回ほど実施しており、夜間想定訓練も行っている。夜間想定訓練には新任職員を当てて経験を積みせ、また、車いす利用者や聞こえの悪い利用者の誘導に時間を要すことの実態を把握している。訓練には近所の住民2人も参加してくれ、心強い。	

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月運営会議や職員の勉強会において、尊重の意味を話し合い、サービスの質向上に取り組んでいます。	利用者一人一人の生活歴を捉えたうえで、個々に合わせたケアに気を付け、人格の尊重を常に意識することを心掛けている。プライバシーに配慮したケアとなるよう、トイレ使用時には誘導は大声ではなく、工夫した声掛けにするなどを配慮し、入浴時は複数で介助することもあり、浴室が周りから見えないよう注意している。経験が長くなるにつれ、言葉掛けがぞんざいになることがあり、法人内の勉強会、毎月の運営会議で理念の確認、振り返り、他法人での虐待の報道などの話題を取り上げながら、人格尊重の意識付けに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を共に過ごす中(フットケア・体操・テレビ体操・レク等)で入居者様の希望や思いを受け止め、すぐにできることはその場で自己決定・実現できるようにしています。時間が必要なことは職員間で話し合い、実現に向け支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転や体調不良、食事制限がある等特別の制約がない限り、極力一人一人のペースを尊重し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、入居者様に服を選んでいただいています。季節感にそぐわない場合や熱中症の危険がある場合は助言をしています。リビングに出るときは身だしなみに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食担当調理員に気づいた都度、味・調理法・硬さ等について意見を述べ、メニューに反映してもらえるように心がけている。調理準備、配膳、洗い物、片付け等入居者様にも率先して手伝っていただき、みんなで行うことも意識しています。	昼食と夕食は近くの食堂から配食され、朝食と日曜日は職員が調理している。利用者の嗜好調査を年2回行ない、年末年始には海鮮丼、雑煮、お汁粉、ラーメンなどの希望をメニューに反映させるようにしている。利用者は当番制で食器拭きやお茶の給仕、テーブル拭きなどを手伝っている。数ヵ月毎におやつレクを行っており、利用者は職員と一緒に手作りを楽しんでいる。	

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者様の好みや体調に応じて提供しています。月1回は体重測定を行い、増減に注意しています。水分量は毎日チェック・記録把握しています。むせこみのある方にはとろみをつけたり、ブレンダーで食べやすくするなど、注意深く観察を行い提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操を行い、食後は口腔ケアを見守りや一部介助にて行い、口腔衛生と機能の維持に努めています。必要に応じて、歯科往診を依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	POO委員会が中心となり、一人一人の排泄リズムの把握、時間ごとの誘導を行い、テープ止めを使用している方も、尿便意の訴えがあるときは、二人介助でトイレに誘導し、トイレで排泄をすることができています。	利用者の便通を促す取組みとして、4年前から「POOマスター養成研修」を始め職員が参加している。下剤を使わずに、腹部マッサージや保温、体操、食事の工夫などにより便通を促す取組みであり、成果が挙がっている。排泄リズムに応じた誘導と便意の訴えで、トイレでの排泄を介助している。失敗した場合には、本人が落ち込まないように声掛けして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品を取り入れ、毎日のPOOPPOO体操を中心とした運動を行いながら極力薬に頼らずに排便を目指しております。排便コントロールを行ったことで夜間快眠につながった方もいました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、週3回の入浴を実施しており、希望がある場合は都度対応しています。冬至には「ゆず湯」を提供しています。	週3回の入浴を基本としており、2名で介助する方が1人で他は1対1での介助である。入浴拒否の方もいるが、時間や、入浴日の変更などの工夫で対応している。職員と1対1となる貴重な時間となっており、リラックスした状態でのコミュニケーションの場ともなっている。季節感あるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣をできるだけ尊重し、自由に休憩をとっていただいています。ただし、昼夜逆転につながらないよう、日中楽しみを持てるレクを模索しつつ提供を行っています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更になった場合は、薬剤師より注意点を聞き、職員間で共有しています。すぐ確認できる服薬一覧表を作成し、服薬内容の理解に努めています。服薬変更があった場合は、副作用に注意し、変化を見逃さないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望に沿い、野菜作り、貼り絵、塗り絵や裁縫等を行っていただいています。数か月に一度居酒屋を開催し、楽しみが持てるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブ(お花見・紅葉見物)や外出を行い、四季の変化を楽しんでいただきました。法人の秋祭りや敬老会、ちゃんこ鍋などに参加され、顔なじみの利用者同士の交流の機会を作ることができました。	職員不足に悩みながらも、お花見や紅葉見物などには出かけており、利用者はドライブ機会を楽しんでいる。近所の散歩やウッドデッキに出たの外気浴、畑作業やその見物、配食の受け取りや近隣の商店での買い物を利用する方もいる。昔馴染みの商店やご近所が少なくなって、買い物を希望する方は少なくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方針として、現金の所持はご遠慮いただいています。必要なものや、希望が生じた場合は、立替購入という方式をとり対応しています。お祭りのときは食事券を使い、食べたいものを選んでいただくなどしました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はその都度対応しています。手紙を出す方はいらっしゃいませんが、面会時に書いたものを渡すなど、それぞれのご希望に沿ってやり取りができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂に分かりやすい表示をしています。また外がすぐ感じられるようにウッドデッキがあり、朝顔や野菜を育て季節感も感じられるようにしていました。壁には入居者様の作品を飾るようになっています。	ホール内には天窓からの日差しが明るく差し込み、暖かさを感じられる。空調はエアコンとパネルヒーターによって適温に保たれている。壁面には大きめの神棚が飾られているほか、季節感ある装飾や「今年の抱負」展示物が掲示されている。利用者は、大きめのテーブル二つとソファに座り寛いで過ごされている。居室前の廊下には、ひじ掛け付きのソファを配置し、どこでも休息できる工夫がされている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型グループホーム ぱんたれい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	岩手山を眺望できる位置にソファースペースを設け、のんびりできる空間を確保しています。別な場所にも二人掛けスペースを設けており、語らい空間になっています。食席にこだわらずに交流できるように話をしやすい環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際はできるだけ使い慣れた家具や写真等を思い出の小物を持参いただくようにお話し、安心できる空間づくりに努めています。	各居室には、ベッドとガスストーブ、タンスなどが備付けられており、利用者はミニタンスや衣装ケース、アルバム、家族写真などを持ち込んでいる。壁にはカレンダーや家族写真、誕生日の記念写真などが飾られて、居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には手すりを設け、また事業所内をすべてバリアフリーとして自由に往来できるようにしています。		